# 熱く優しく琉球世界

## 港区沖縄県人会青年部がライブ

熱く優しく懐かしい琉球ワールドに浸れたライブ「みなとでも～あしび～」（写真は最後に客席と舞台が一体となって展開された「カチャーシー」の乱舞）

あいさつする吉本青年部長

熱く優しく懐かしい〝琉球ワールド〟に参加者みなが酔いしれました―。五月十七日、港区民センターで開催されたライブ「みなとでも～あしび～」。折からの激しい雨をついて千人近い人々が来場し、沖縄民謡を中心に様々な出し物を楽しみました。港区沖縄県人会青年部が主催。音楽などを通じて沖縄関係者が交流を深め、県人会活動を一層活発にしようと昨年から始まった催しで、二回目。

**●民謡やお笑いなど次々**

開演前からの熱気の中、吉本忠憲青年部長が「〝も～あしび～〟とは若い男女の集まりを指す沖縄言葉。歌ったり飲んだり語り合ったりする合コンのようなもの。外は雨ですが、心晴れ晴れと過ごして下さい」と呼びかけました。

市岡中吹奏楽部の演奏を皮切りに、沖縄民謡、ラテン音楽、エイサー、琉球舞踊などが次々と登場。この中で、吉本芸人・宮川たまこさんの芸には若者らがやんやの喝さい。「くくるや」（オーク200の三線と雑貨の店）のグループによる爽やかな島唄演奏―**写真**―には何度も指笛が飛び、沖縄出身の人気ソウルユニット「RYOEI」のプロの歌唱には感嘆の声が上がりました。

また中盤には、車イス一台（港区沖縄県人会に呼びかけ、一年半かけて集めた空缶プルトップで購入）が港区社会福祉協議会ひまわりに寄贈されました。

**●カチャーシーの乱舞**

最後に沖縄の代表的な踊り「カチャーシー」が呼びかけられると、舞台でも客席でも乱舞が起こり、ムードは最高潮に達しました。熱く、優しく、懐かしい琉球の空気が会場に満ち溢れたように感じられました。

二回目の参加という大城さん（五十代、市岡）は沖縄県豊見城の出身。「去年より来場者の年齢幅が広がっていました。我々には沖縄の歌が一杯あるのが嬉しかった」と話していました。

なお、港区沖縄県人会青年部には、沖縄出身者でなくても関心ある人なら入れるということです。問い合わせは☎〇八〇―六一一四―八二六三吉本部長まで。

# 人生劇場

みなと

## 夫婦で越えた幾山河――宇山義子さん(67)（弁天）

人生を振り返ったスイス・ブリエンツ湖の畔で夫と（平成８年夏）

### 〔第1幕〕

# 旅先で感じた夫婦の幸せ

## 貧乏を薬に成長した少女期

平成八年夏。私はスイスのブリエンツ湖畔に佇み、湖面を渡る爽やかな風に吹かれていました。そして、周囲の美しい景色に見惚れながら、そばにいる夫と歩んだそれまでの人生を振り返っていました。色んなことがありました。楽しい思い出と共に、辛く悲しい出来事もありました。でも夫と二人、こうして何の心配もなく旅行できる喜びを、いま日本のどれだけの夫婦が持てているだろうかと考えると、この幸せを当たり前と捉えず、多くの方々の支えのお陰と心からかみしめなければ、バチが当たると思いました。以来、その気持ちをずっと持ち続けて参りましたが、この度、港新聞様からお声がかかったのを幸いに、その思いを形にできる貴重な機会と考え、恥ずかしながら私の〝人生劇場〟の一端を、読者の皆様にご覧頂くことにしました。拙い役者ではありますが、夫と二人、精一杯〝演じ〟ますので、どうか最後までお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

◇

私は昭和十六年十月、港区の旧石田町（現在の弁天四、五丁目あたり）に生まれました。ちょうど太平洋戦争が始まる直前で、私は父が三十歳、母が二十四歳の時の子でした。私は長女で、のちに弟が二人生まれました。

**◆かすかな戦争の記憶**

四歳の頃、疎開した母の里・徳島で、防空頭巾をかぶり、母の背に負われながら、空襲で赤く染まる大阪方面の夜空を見ていたのをかすかに覚えています。

父は兵隊に取られ、戦争中は満州で馬の世話係をしていたそうですが、戦後は港湾関係の日雇労働者として働き始めました。

私たち一家は戦後、父の里である奈良県北葛城郡へ引っ越し、昭和二十七年、私が小学五年生の夏休みに港区へ戻りました。私は波除小に編入学し、その第一回卒業生となりました。

**◆バラック小屋暮らし**

私たちの暮らしは貧しいものでした。三畳一間のバラック小屋に親子五人が肩を寄せ合って生活しました。トイレも水道も外にあり、共同使用でした。石炭を積んだ車が坂道で荷崩れを起こすと、落ちた石炭を拾いました。安治川の浜（その頃はまだ堤防がなく、浜になっていました）へ木を拾いに行ったり、灰の中からコークスを拾ったりもしました。そうして、それらを家で使ったり売ったりして家計を助けました。

**◆給食・遠足代払えず**

給食費が払えなかったのるふりをして校門を出、水を飲み、授業になるとまた学校へ戻りました。遠足代が払えないので、遠足にはいつも行けませんでした。

こうした暮らしは私たちを知らぬ間に精神的に鍛えてくれたようで、父は後に「貧乏が薬やった」と振り返っていました。

そんな生活の中、少女時代の私は「人が三人寄っている所ならどこへでも行きたがる」と言われるほど人懐っこく、また「何でも見てやろう」という好奇心に溢れていました。

その人懐っこさと好奇心は、バラック校舎の市岡中学校に入ると、思春期の恥じらいと勉学への興味を得て微妙に変化していきました。

（つづく）

# 日本民謡を次世代に

## 隆勢会が発表会　陽気に華やかに

「日本民謡を次世代に」と開かれた隆勢会の「第8回みんよう発表会」（写真は「東京音頭」の舞台）

「隆勢会」による「みんよう発表会」が五月十日、港区民センターで開かれました。同会と南市岡社会福祉協議会が主催。八回目。

陽気な「花笠音頭」で幕を開けたあと、幼稚園児から七十代までの一般会員や名取・師範による唄や踊り、三味線・和太鼓合奏、ヤング&ジュニアコーナー、観光案内も兼ねた「関東地方・民謡の旅」などが手際よく進行しました。終盤には田所隆勢会主自らが「山中節」などを披露。山中節全国大会優勝などの実績を裏づける円熟の節回しに感嘆の声が上がりました。

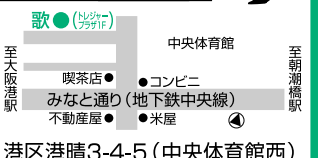
同会は平成十三年に発足。南市岡、磯路などに教室。日頃の稽古や発表会、コンクール出場などを通じて日本民謡の楽しさを次世代へ広げています。☎六五八三―三一二〇田所会主。

あなつかしい！ 歌声喫茶 よみがえる青春！ アコーデオン伴奏

昭和30年代に大流行した「歌声喫茶」が港区に復活!!童謡唱歌から世界の民謡、青春歌謡までアコーデオンの生伴奏に合わせて皆で歌えば心は青春時代。さあ、あなたもご一緒にどうぞ!!

毎月第2・第4月曜14～16時　料金1,500円 飲物・菓子付

カラオケ喫茶 歌




港区港晴3-4-5（中央体育館西）
営正午～夕方5時、夜7時～11時
休毎週日曜　☎6576-7055

子や孫に自分の人生を残そう！
お話をききとり、文章にしてお渡しします。
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636

まごころサービスでお迎え！
初めての方もぜひ一度お立ち寄り下さいませ！
弁天3-24-3 ☎6574-2900

永大サービスのガソリンスタンド

豊かで、快適な暮らしを守る永大
安心できるお引っ越し
★当社は地元の方々へのサービスがモットーです。
★引越に伴う不要品を無料で引き取ります。
※一部有料もあります　※良品なら高価買取もOK　※お気軽にご相談下さい
トランクサービス
●建替え、増築などの一時預かりに最適！
●引越し、引取りが大幅に安くなります！
●ご連絡があり次第、当社がお伺いします！
安心保管
安さに挑戦 永大トランク引越サービス
0120-07-9990 TEL6584-7771 FAX6584-7773
■本社／港区波除6-2-9　■http://www1.ocn.ne.jp/～eidai/
■受付／平日(月～金)AM8:00～PM7:00（土日祝）AM9:00～PM6:00